

2024年 3 月期 決算説明資料

— Agenda —

説明内容	説明者	予定時間
・ 2024年 3 月期 通期決算報告 ・ 持続的な成長の実現に向けた取り組み 『資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について』	代表取締役社長 木村 隆利	35分
・ 質疑応答	社長、各事業統括 財務・経営企画担当役員	25分

↑ 前期比で増収・増益。

↑ 業績予想比も、売上高はほぼ予想通り、利益面では想定を上回って着地。

(単位：百万円)

	2022年度 通期実績	2023年度		増減			
		業績予想	通期実績	前期比	増減率 (%)	予想比	増減率 (%)
売上高	251,574	267,000	266,812	+ 15,238	+ 6.1%	- 187	- 0.1%
営業利益	18,985	19,000	21,262	+ 2,276	+ 12.0%	+ 2,262	+ 11.9%
営業利益率	7.5%	7.1%	8.0%				
経常利益	20,958	20,900	23,450	+ 2,492	+ 11.9%	+ 2,550	+ 12.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	13,742	16,700	18,551	+ 4,809	+ 35.0%	+ 1,851	+ 11.1%
ROE	6.4%	—	7.7%	+ 1.3%	—	—	—
換算レート (USD)	135.50	143.75	144.59				
(EUR)	141.00	155.25	156.75				
(RMB)	19.50	19.82	19.82				

- ↑ チェーン事業は好調持続、モビリティ事業は半導体不足影響の解消に伴い、前期比で増収・増益。
- ↓ マテハン事業は前期比で増収も、損失計上。モーションコントロール事業も苦戦。

(単位：百万円)

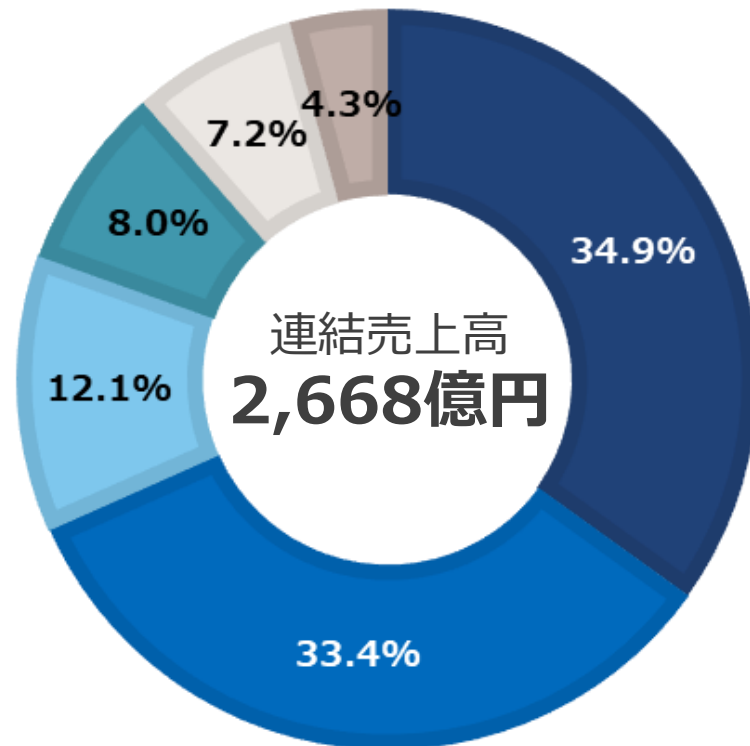
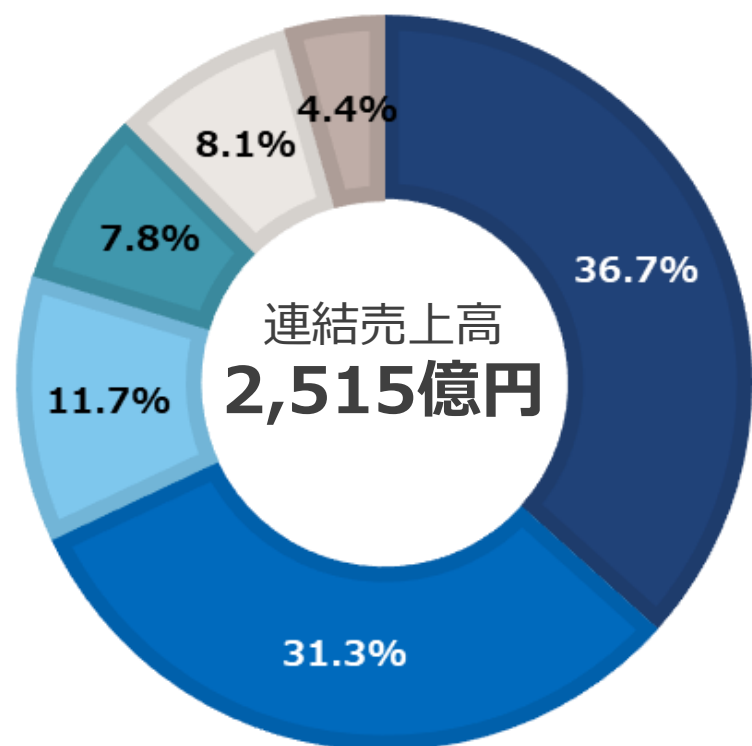
	売上高 ※1					営業利益				
	2022年度 通期実績	2023年度		増減率 (%)		2022年度 通期実績	2023年度		増減率 (%)	
		予想	実績	対前年	対予想		予想	実績	対前年	対予想
チェーン	90,096	94,000	94,151	+ 4.5%	+ 0.2%	13,687	15,500	16,396	+ 19.8%	+ 5.8%
モーション コントロール	23,316	22,000	22,731	-2.5%	+ 3.3%	1,710	400	660	-61.4%	+ 65.1%
モビリティ	77,275	85,000	84,616	+ 9.5%	-0.5%	6,376	7,200	7,815	+ 22.6%	+ 8.5%
マテハン	60,973	66,000	65,312	+ 7.1%	-1.0%	▲ 888	▲ 1,500	▲ 1,165	—	—
その他 ※2	3,200	3,000	3,404	+ 6.4%	+ 13.5%	▲ 534	▲ 1,000	▲ 944	—	—
調整額	▲ 3,287	▲ 3,000	▲ 3,402	—	—	▲ 1,365	▲ 1,600	▲ 1,499	—	—
合計	251,574	267,000	266,812	+ 6.1%	-0.1%	18,985	19,000	21,262	+ 12.0%	+ 11.9%

※1 売上高には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

※2 「その他」は報告セグメントではありません。

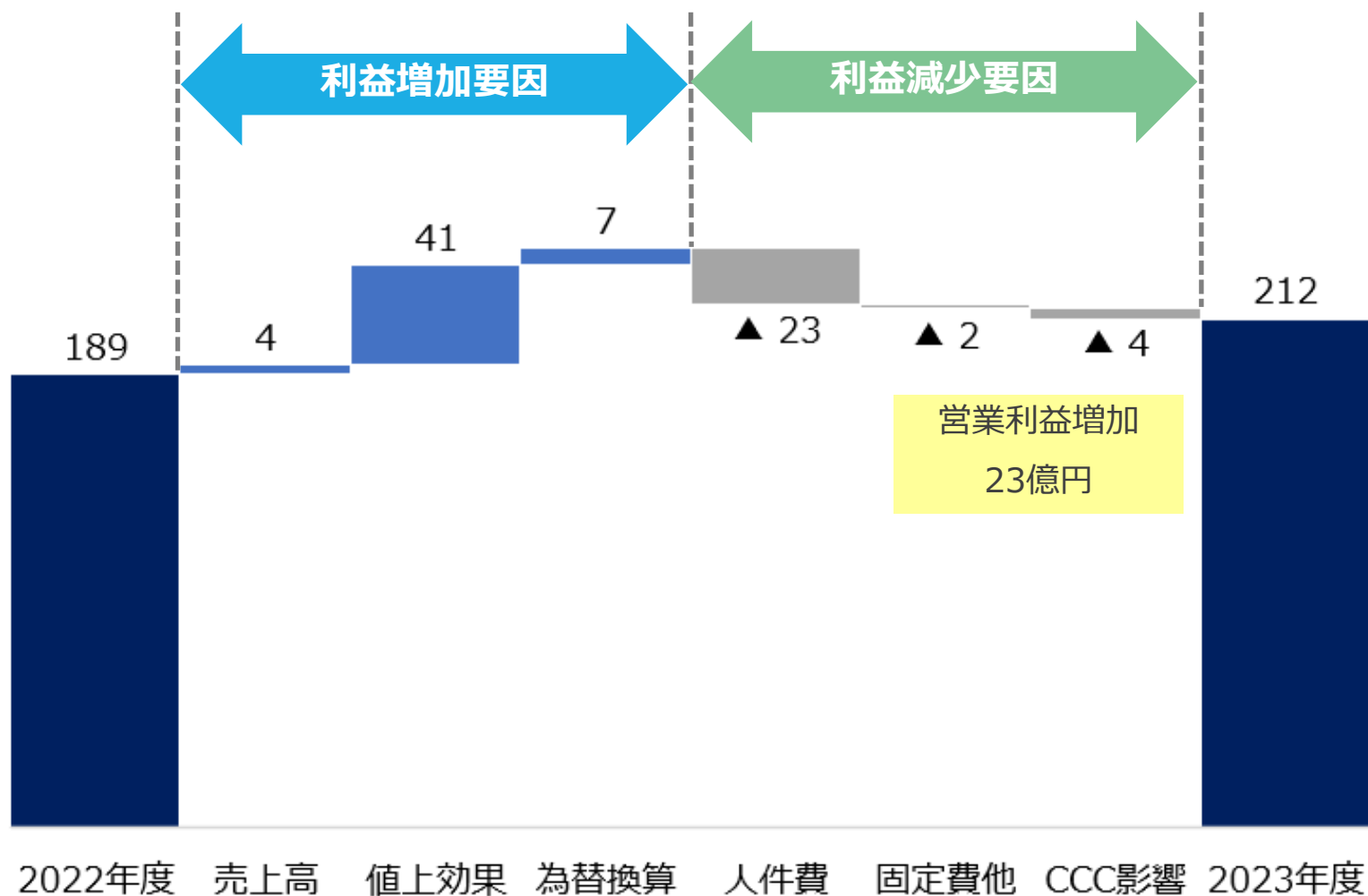
2023年3月期
海外売上高比率：63.3%

2024年3月期
海外売上高比率：**65.1%**



■ 日本 ■ 米州 ■ 欧州 ■ 環インド洋 ■ 中国 ■ 韓国・台湾

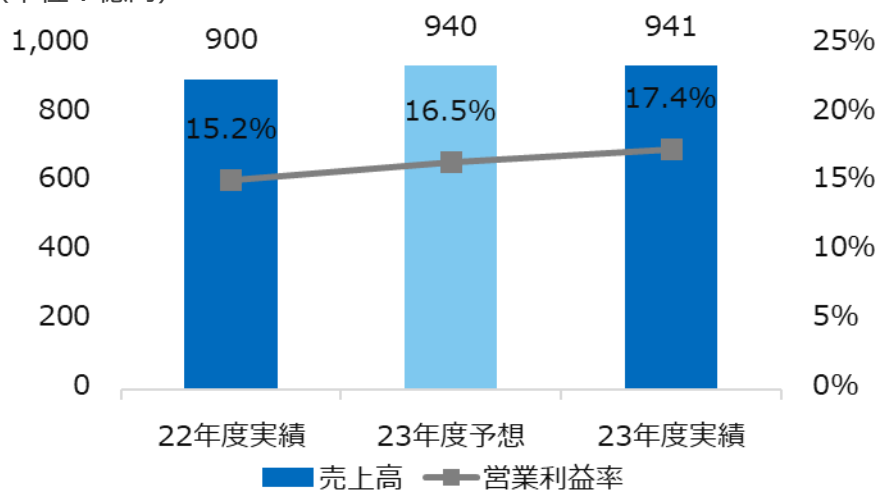
2023年3月期実績 vs 2024年3月期実績



通期実績セグメント別概況 ― チェーン

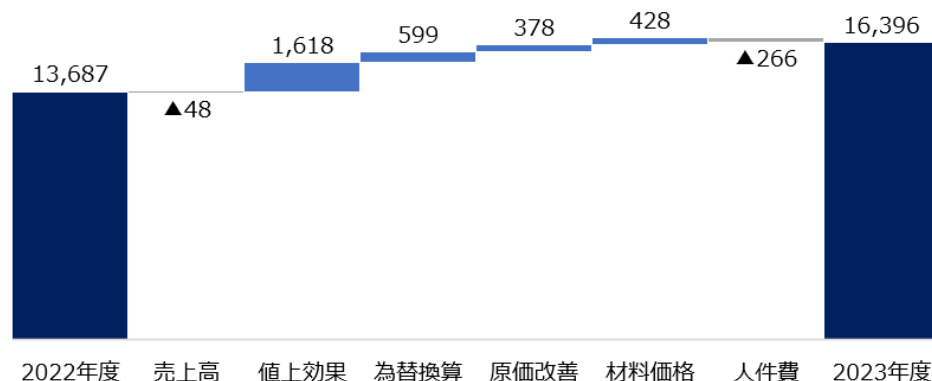
売上高・営業利益率推移

(単位：億円)

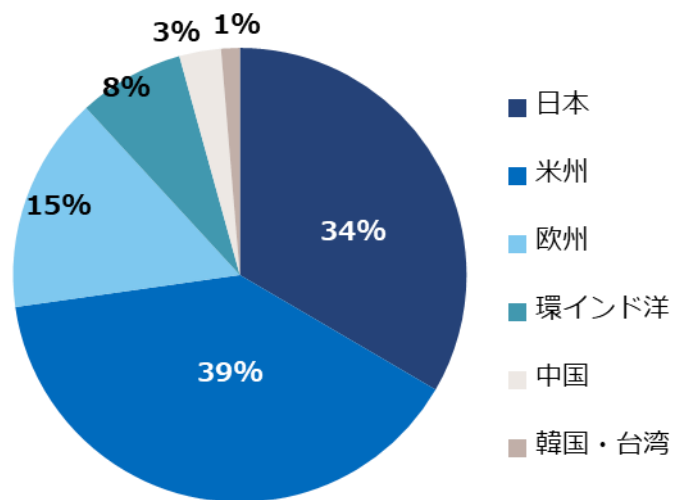


営業利益 増減要因

(単位：百万円)



地域別売上高占有率



✓ 前期比

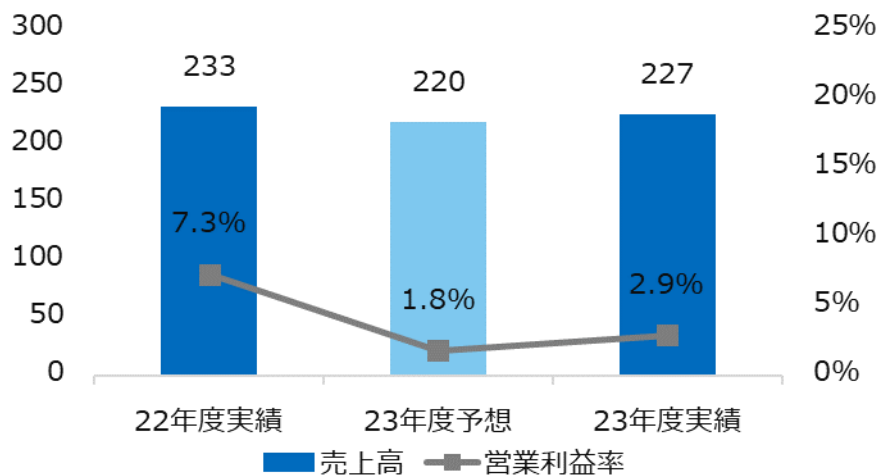
- ・ 日本国内および欧州での販売が堅調を維持。北米は下期にかけ需要が一服も、円安の影響もあり増収。トータルで増収・増益。

✓ 予想比

- ・ 売上高はほぼ想定通り。北米での輸送コスト減少等により予想を上回って着地。

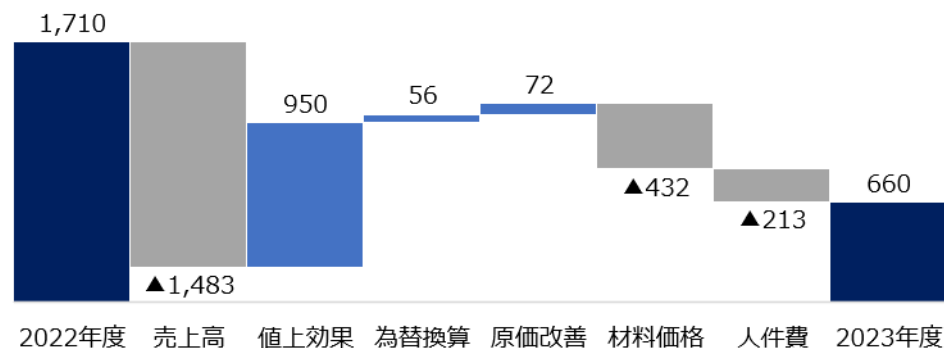
(単位：億円)

売上高・営業利益率推移

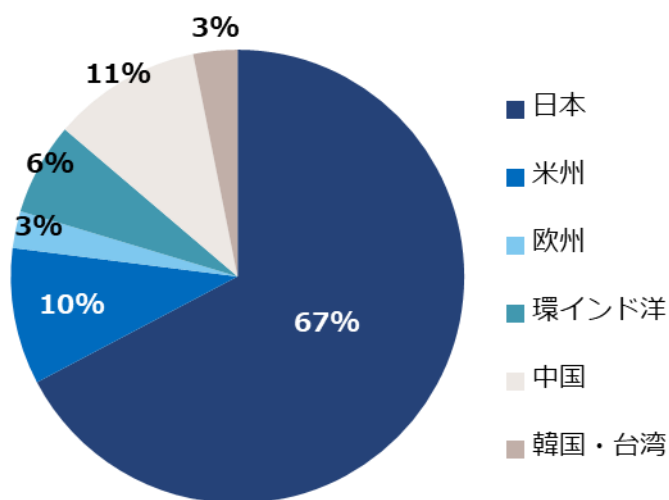


営業利益 増減要因

(単位：百万円)



地域別売上高占有率



✓ 前期比

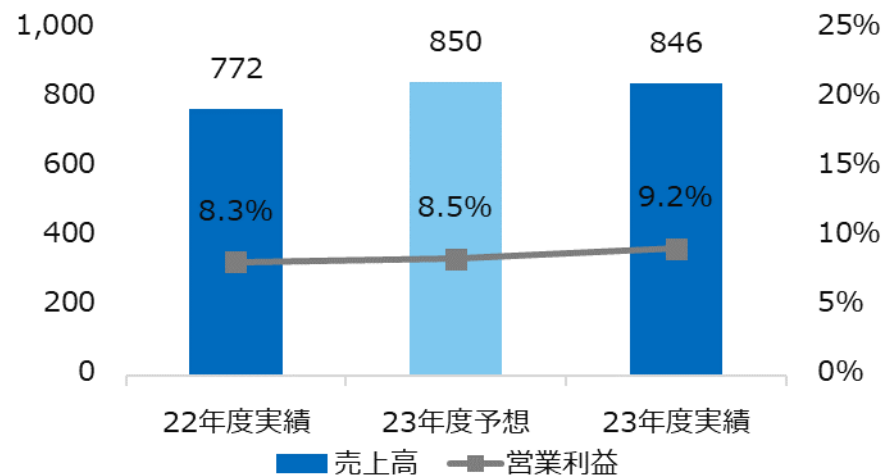
- ・ 工作機械業界向けや液晶・半導体製造設備向けが回復遅延。液晶・半導体製造設備向けは下半期から回復傾向ではあるが、全体的に苦戦しており、減収・減益。

✓ 予想比

- ・ 売上高についてはほぼ予想どおり。営業利益は各種コスト削減に努め、予想を上回って着地。

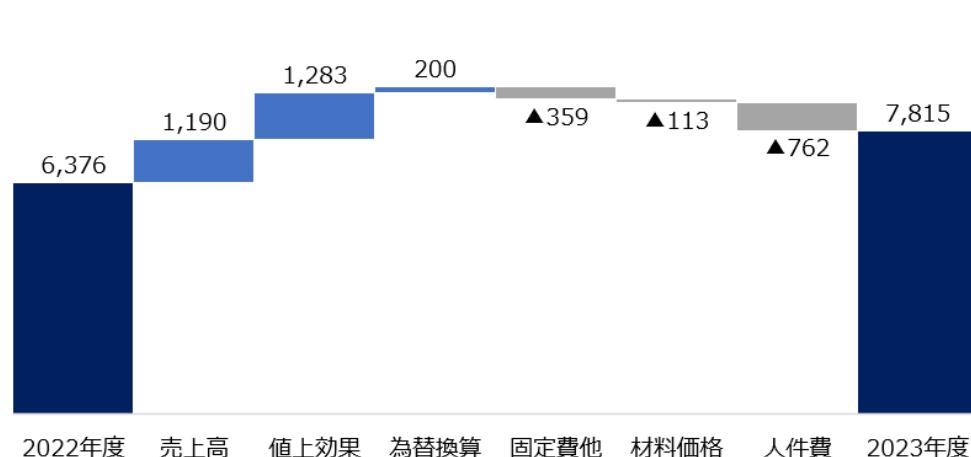
売上高・営業利益率推移

(単位：億円)

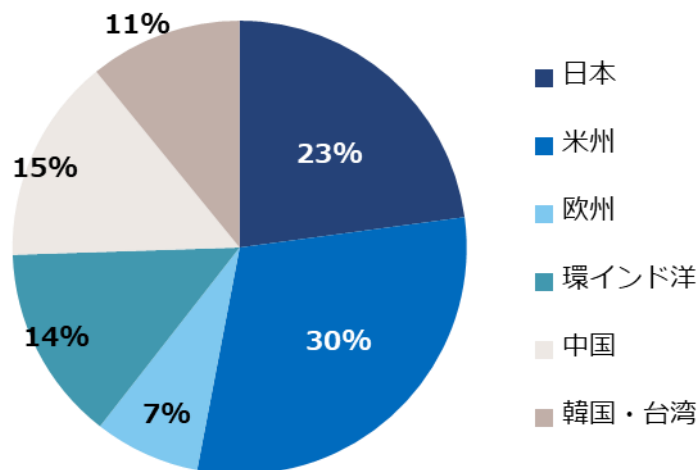


営業利益 増減要因

(単位：百万円)



地域別売上高占有率



✓ 前期比

- ・半導体不足の解消に伴い、中国および環インド洋を除く各エリアで販売増加、増収・増益。

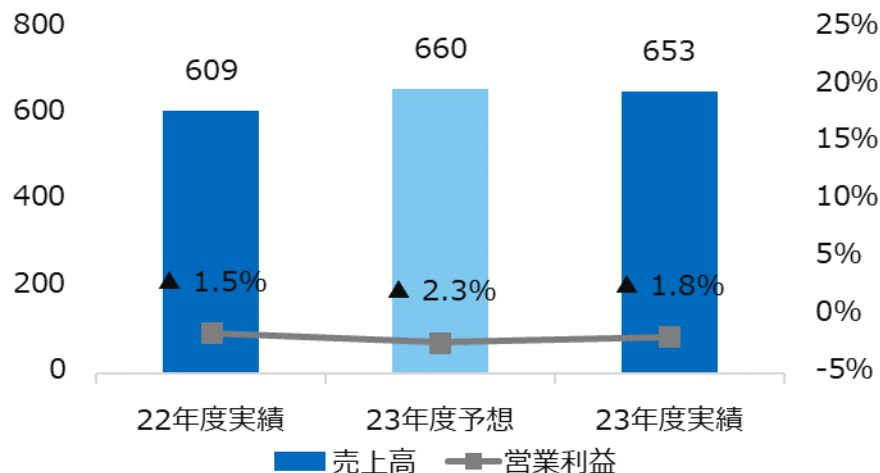
✓ 予想比

- ・売上高については、ほぼ予想どおり。
営業利益については、日本および米国での販売好調により、予想を上回って着地。

通期実績セグメント別概況 ― マテハン

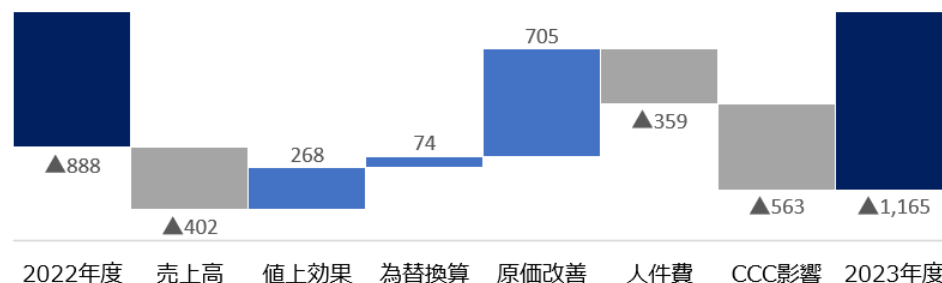
売上高・営業利益率推移

(単位：億円)

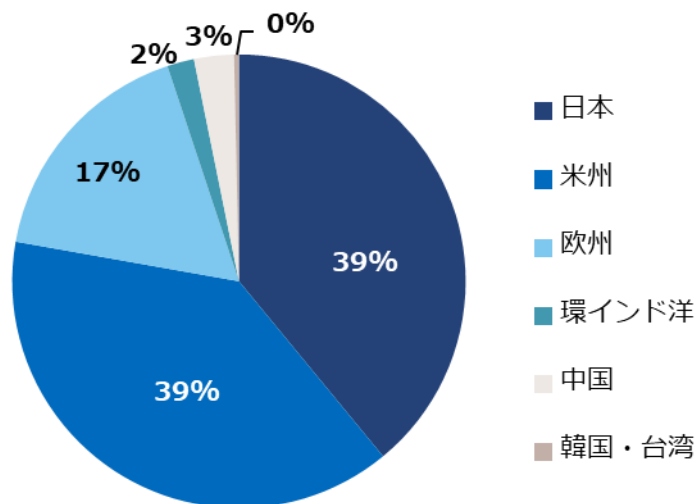


営業利益 増減要因

(単位：百万円)



地域別売上高占有率



✓ 前期比

- ・日本国内における粉粒体搬送設備がバイオマス発電向けなどで好調、米州における金属切屑搬送・クーラント処理装置の販売増加により増収。
- ・北米子会社での損失計上、日本における物流業界向けシステム等の販売減少により損失拡大。

✓ 予想比

- ・売上高はほぼ想定どおり。
- ・コスト削減により損失圧縮。

↑ 前期比で売上高 4.9%、営業利益 8.2% の増収・増益を計画。
 当期純利益については、政策保有株式の売却も織り込み、18.6%の増益を計画。

(単位：百万円)

	2023年度 通期実績	上期予想	2024年度 下期予想	通期予想	前期比 増減率(%)
売上高	266,812	136,000	144,000	280,000	4.9%
営業利益	21,262	9,400	13,600	23,000	8.2%
営業利益率	8.0%	6.9%	9.4%	8.2%	
経常利益	23,450	10,000	14,000	24,000	2.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	18,551	9,000	13,000	22,000	18.6%
為替レート (USD)	144.59円	145.00円		145.00円	
(EUR)	156.75円	155.00円		155.00円	
(RMB)	19.82円	20.32円		20.16円	

↑ 全ての事業で増収を計画。

北米の需要の落ち着きに伴い、チェーン事業は減益も、マテハン事業およびモーションコントロール事業の収益性改善により増益を計画。

(単位：百万円)

	売上高 ※1			営業利益		
	2023年度 通期実績	2024年度 予想	増減率 (%)	2023年度 通期実績	2024年度 予想	増減率 (%)
チェーン	94,151	95,000	+ 0.9%	16,396	15,500	▲ 5.5%
モーション コントロール	22,731	24,000	+ 5.6%	660	1,000	+ 51.4%
モビリティ	84,616	90,000	+ 6.4%	7,815	8,200	+ 4.9%
マテハン	65,312	71,000	+ 8.7%	▲ 1,165	1,200	—
その他 ※2	3,404	4,000	+ 17.5%	▲ 944	▲ 1,000	—
調整額	▲ 3,402	▲ 4,000	—	▲ 1,499	▲ 1,900	—
合計	266,812	280,000	+ 4.9%	21,262	23,000	+ 8.2%

※1 売上高には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

※2 「その他」は報告セグメントではありません。

業績予想セグメント別概況 ― チェーン

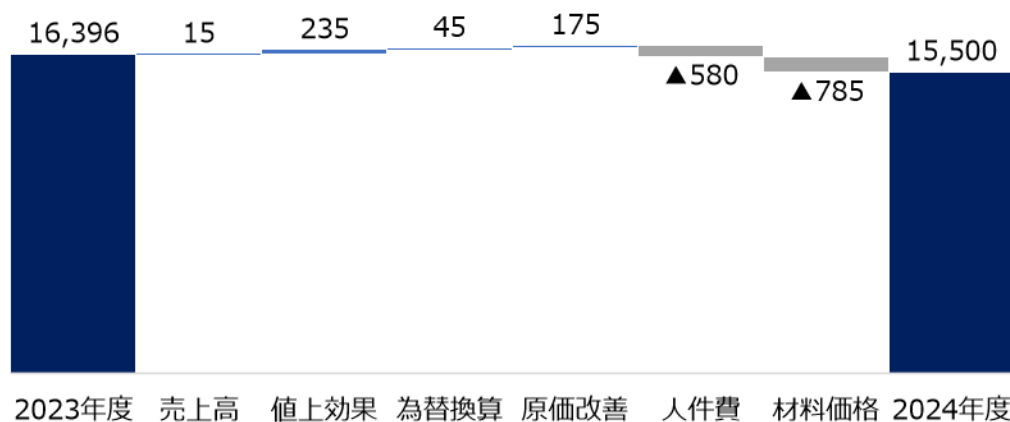
※1 売上高には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

売上高 ※1					営業利益				
2023年度 通期実績	上期	2024年度予想 下期	通期	増減率 (%)	2023年度 通期実績	上期	2024年度予想 下期	通期	増減率 (%)
94,151	47,000	48,000	95,000	+ 0.9%	16,396	7,000	8,500	15,500	▲ 5.5%

営業利益 増減要因

(単位：百万円)



✓ 売上高

海外需要の一服等により、売上高は前年並みにとどまると想定。

✓ 営業利益

生産の自動化・省力化や内製化に取り組み原価改善を図るものの、人件費の上昇等により、前期比5.5%の減益を想定。

業績予想セグメント別概況 ― モーションコントロール

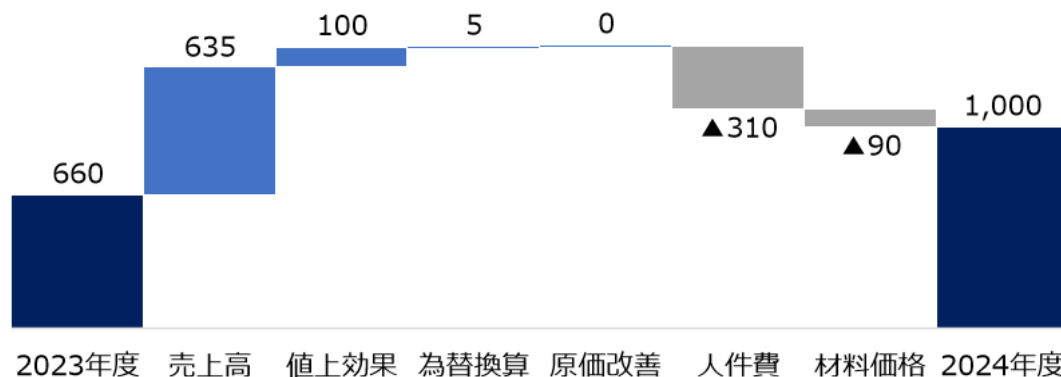
※1 売上高には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

売上高 ※1					営業利益				
2023年度 通期実績	上期	2024年度予想 下期	通期	増減率 (%)	2023年度 通期実績	上期	2024年度予想 下期	通期	増減率 (%)
22,731	11,000	13,000	24,000	+ 5.6%	660	300	700	1,000	+ 51.4%

営業利益 増減要因

(単位：百万円)



✓ 売上高

半導体業界向けや工作機械業界向けの本格的な回復を年度後半と見込み、売上高は前期比5.6%の増収を想定。

✓ 営業利益

人件費の上昇やモータ等の材料価格の値上げ影響はあるものの、売上高の増加および製品値上げによる収支改善により、前期比51.5%の増益を想定。

業績予想セグメント別概況 ― モビリティ

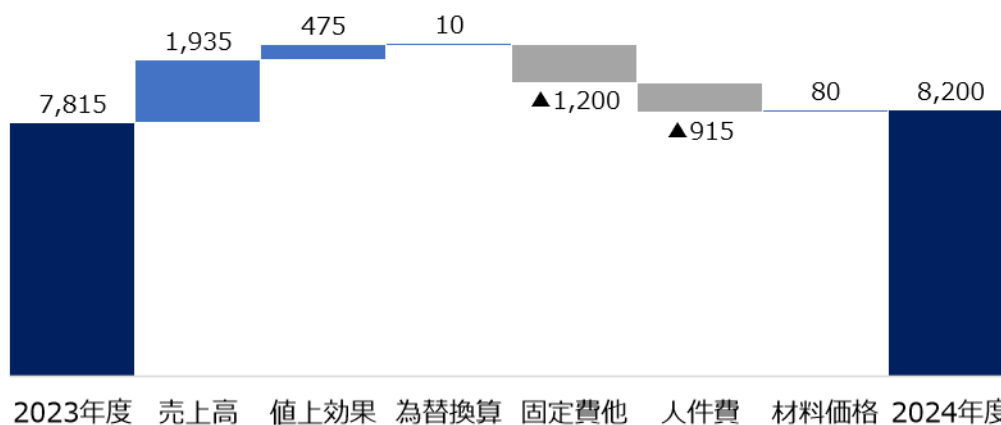
※1 売上高には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

売上高 ※1					営業利益				
2023年度 通期実績	上期	2024年度予想 下期	通期	増減率 (%)	2023年度 通期実績	上期	2024年度予想 下期	通期	増減率 (%)
84,616	44,000	46,000	90,000	+ 6.4%	7,815	3,300	4,900	8,200	+ 4.9%

営業利益 増減要因

(単位：百万円)



✓ 売上高

世界自動車生産の持ち直しにより、売上高は前期比6.4%の増収を想定。

✓ 営業利益

人件費の上昇や、生産増に伴う製造経費等のコスト増はあるものの、売上高の増加、製品値上げによる収支改善により、前期比4.9%の増益を想定。

業績予想セグメント別概況 ― マテハン

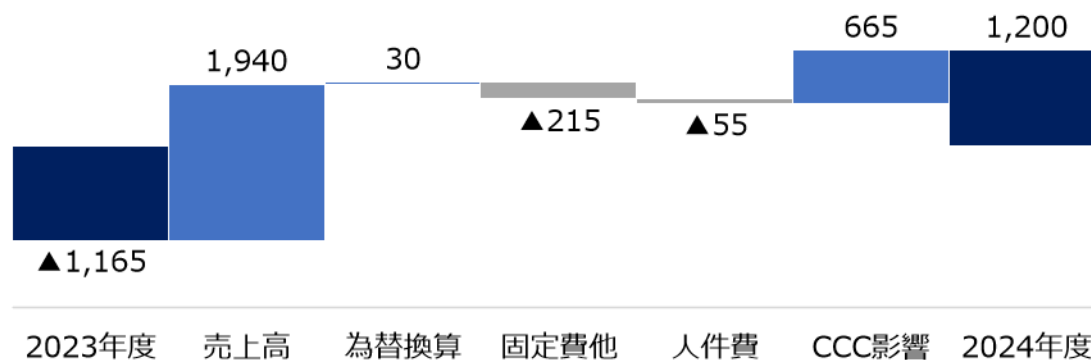
※1 売上高には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

売上高 ※1					営業利益				
2023年度 通期実績	上期	2024年度予想 下期	通期	増減率 (%)	2023年度 通期実績	上期	2024年度予想 下期	通期	増減率 (%)
65,312	34,000	37,000	71,000	+ 8.7%	▲ 1,165	100	1,100	1,200	—

営業利益 増減要因

(単位：百万円)



✓ 売上高

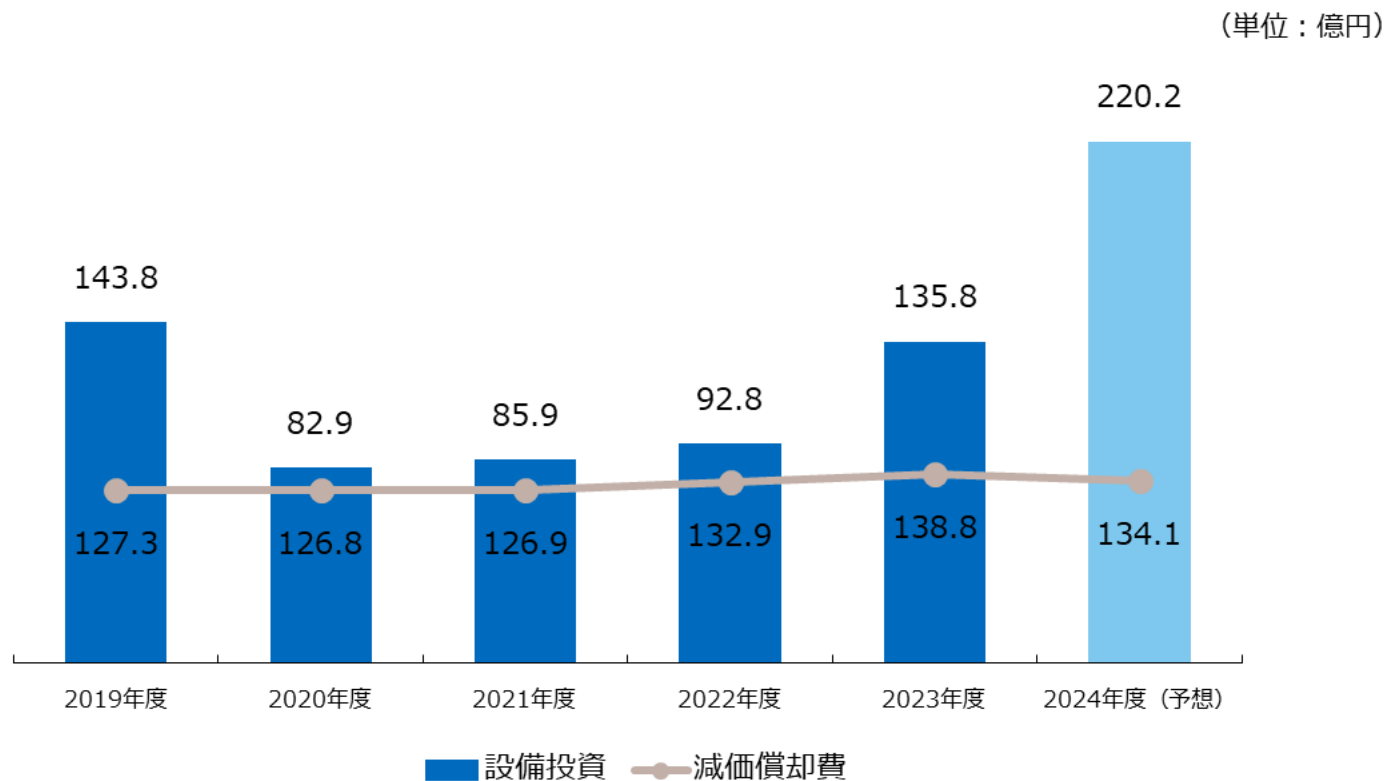
日本における粉粒体搬送設備の堅調持続、物流業界向け設備や自動車搬送設備の売上増を見込み、前期比8.7%の増収を想定。

✓ 営業利益

日本国内での売上高の増加、cccの収支改善により、12億円の営業利益を想定。

9 設備投資計画

- ✓ 成長力強化に向けた「資本投入」
 - ・ 生産体制の自動化および効率化投資（全事業）
 - ・ 北米におけるチェーン事業の設備拡充

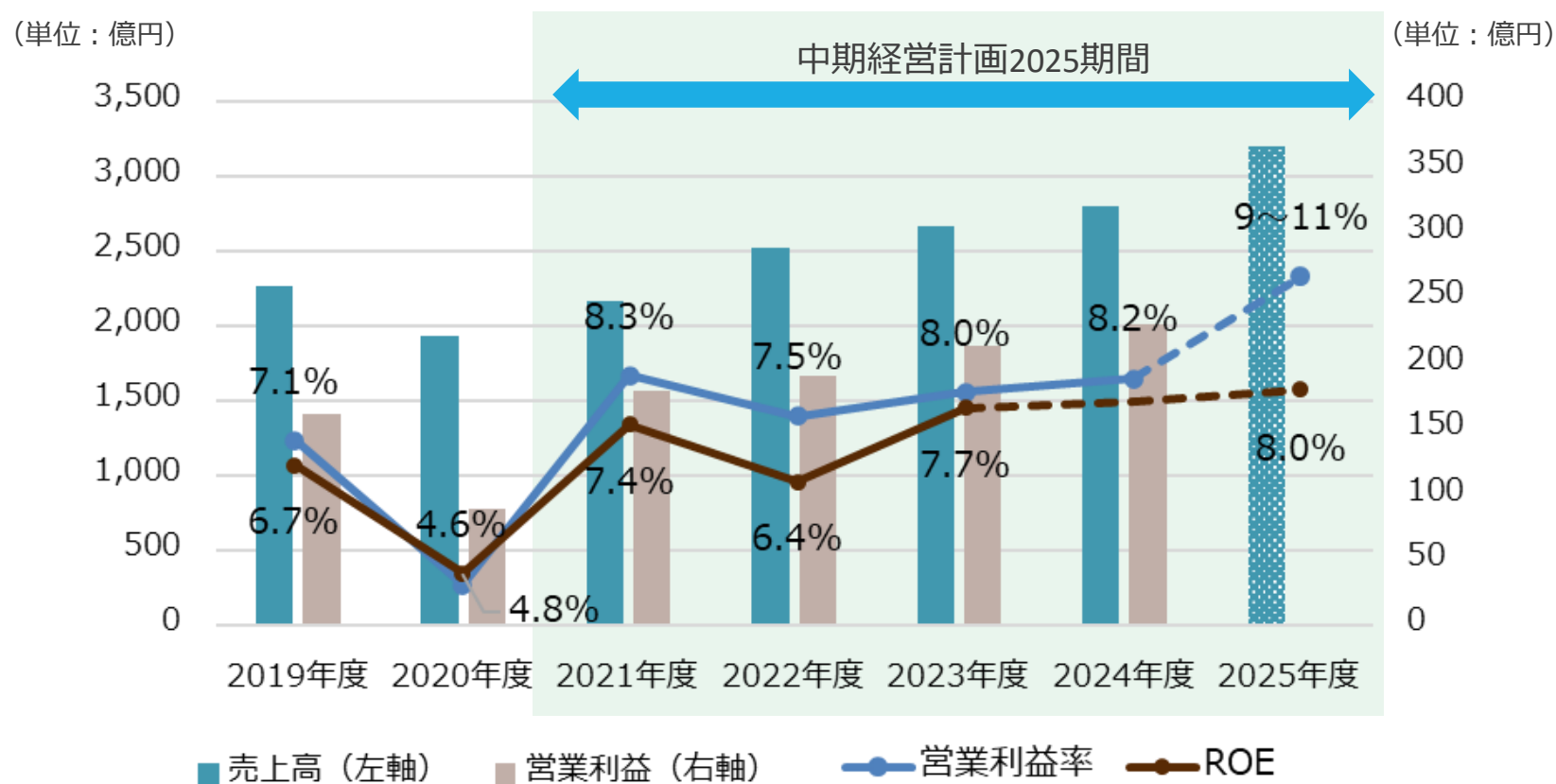


持続的な成長の実現に向けた取り組み

『資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた
対応について』

中期経営計画2025目標数値

売上高3,000億円～3,200億円、営業利益率9～11%、ROE 8 %以上
(2025年度)



現状認識

- ✓ PBRは24年3月期末で0.71倍、改善に向けた取り組みは喫緊の課題

方針

- ✓ 中期経営計画2025で掲げた**戦略のスピーディな実行**、新規事業等への**投資の活性化**、**株主還元の強化**、双方を推進

具体策

- ✓ 成長戦略の実行による**持続的な利益成長**
- ✓ 適正な現預金水準を意識した**戦略的な株主還元**

持続的な成長に向け3つの投資を積極的に推進



新商品・新事業



環境（カーボンニュートラル）



人的資本
（人材育成、従業員エンゲージメント）

事業拡大・持続的な利益成長に向けた中長期方針

✓ 新製造拠点と供給体制の強化

- ― 世界製造拠点での自動化・DX化の推進、新製造技術開発等による品質・供給力・収益性の向上
- ― 新製造拠点の検討（欧州、インド）
- ― 販売拠点でのカスタマイズ機能拡充

上記実行にあたり商品開発投資・M&Aを計画的に実行する

✓ グローバル販売拡大

- ― 既存市場の販売拡大
（米州・欧州・中国・東南アジア）
- ― 空白地帯の市場開拓
（インド・南アフリカ・中東）



短期目標・取組み中案件

✓ No.1商品のさらなる強化

- ― 超小形・世界最小ローラチェーンの市場投入
一般産業にとどまらない、新市場の開拓



- ― 次世代ローラチェーン「G9」の市場投入（2026年発売予定）

開発コンセプト

“地球にやさしく あなたにやさしい”

～ 開発目標（前モデル比）～

- ✓ 疲労強度向上：120%
- ✓ 摩耗性能向上：140%
- ✓ 安全性向上 など

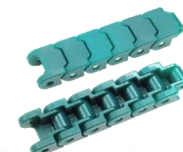


- ― 環境配慮型商品の市場投入

リサイクル材料やバイオマス材料を使用した商品の開発・市場投入

プラチチェーン用
アイドラー

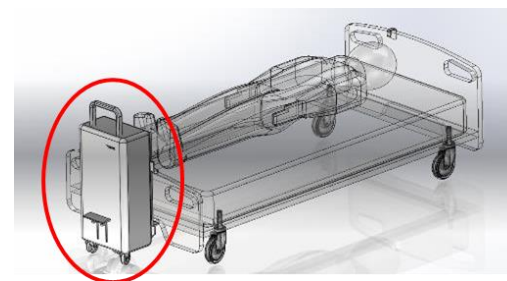
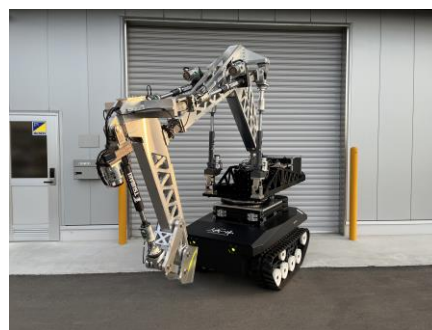
ケーブルベヤ



事業拡大・持続的な利益成長に向けた中長期方針

✓ グローバル・ロードマップを明確にした商品開発
(コア商品中心に市場に適合した商品開発)

- ① リニアアクチュエータ
- ② カムクラッチ
- ③ ウォーム減速機
- ④ 駆動制御ユニット



✓ 製造拠点・販売のグローバル化

OEM志向の強い欧州諸国を対象とした重要商品（コア商品）の現地生産
海外売上高比率 現状30% ⇒ 50%を目指す

短期目標・取組み中案件

✓ 技術営業の強化、ジップ商品の市場訴求

- 「アークチェーン※アクチュエータ™」を開発・販売
ウィング型トラックの荷室開閉装置として
量産採用決定、販売拡大を推進

※アーチ状に伸縮する噛み合い式チェーン



✓ 海外現地ノックダウン生産、アフターサービス事業の水平展開

- 大形コンベヤチェーンを納入する重要顧客へアプローチ
地域：オーストラリア・カナダ・欧州・南アフリカ等
業界：マイニング・鉄鋼・森林・製糖・バルク搬送インフラ関連等
商品：リニアアクチュエータ・カムクラッチ

事業拡大・持続的な利益成長に向けた中長期方針

✓ 新規事業（非タイミングビジネス）の獲得・拡大

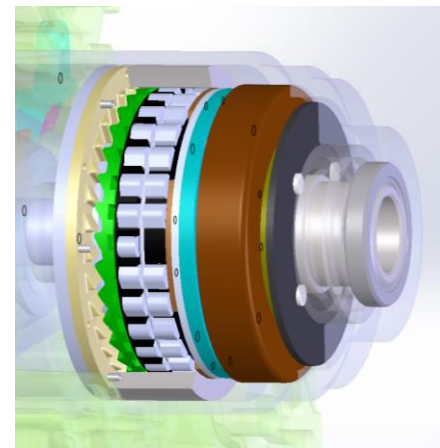
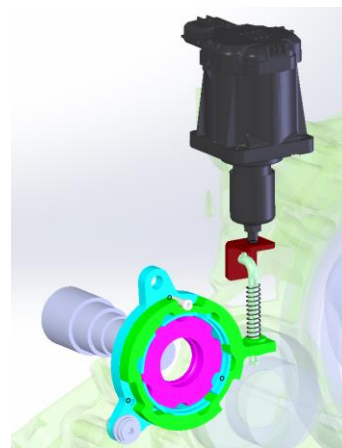
― 「誰もが気軽に乗れる」がコンセプトの
電動アシスト三輪自転車

“おもい”をのせて どこまでも、らしく。

LA SI QUE の開発促進

負担を減らし
業務効率向上と
働きやすい環境に▶ 東京都杉並区との業務利用に係る実証実験を開始
(2024年6月～)

― 四輪用クラッチ&ユニット

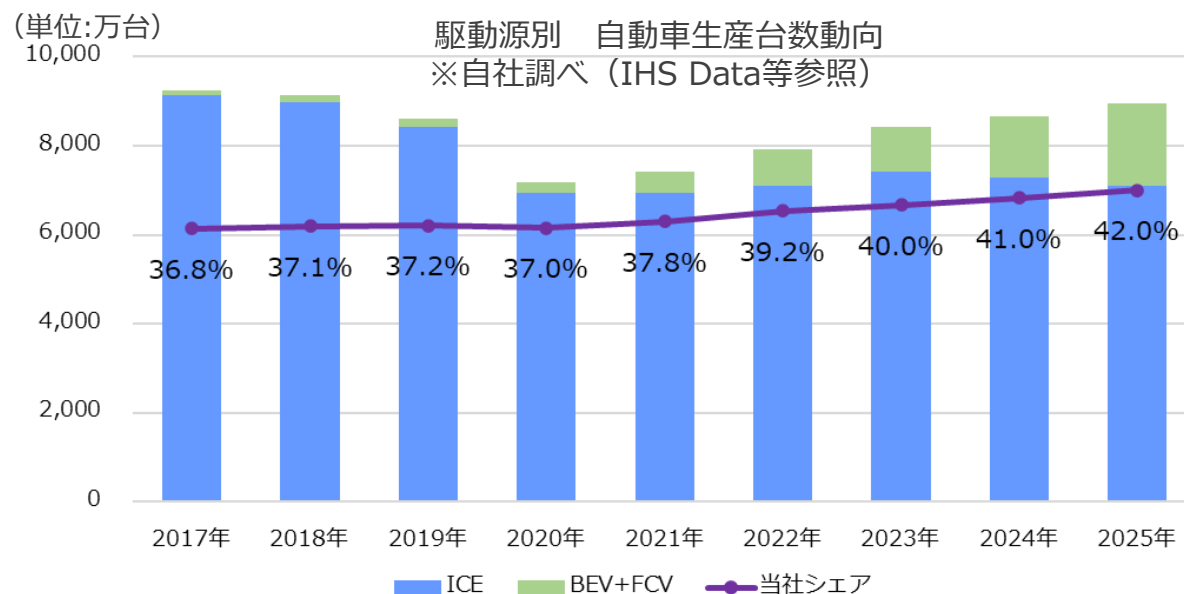
パーキングロック用
(for xEV、ICE)2WD-4WD切替用
(for HEV、BEV)

― パーソナルモビリティ用チェーン&クラッチ

短期目標・取組み中案件

✓ 内燃機関ビジネスの拡大と徹底した利益確保

- EURO7などの新排ガス規制対応タイミングシステム開発・納入
- HEV / PHEV対応タイミングシステム開発・納入
- 中国市場でのPHEV・レンジエクステンダー攻略・受注
- 北米市場での需要見直しによる製造再構築
- DXを活用した生産性向上



事業拡大・持続的な利益成長に向けた中長期方針

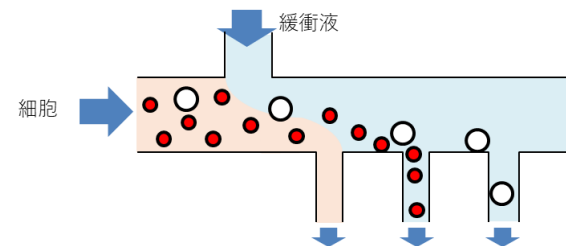
✓ 新製品・新技術の市場投入



半導体OHT事業

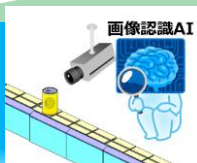


環境アップサイクル事業



再生医療事業

新規成長



AI画像認識

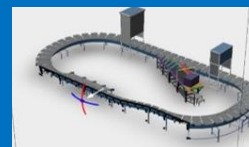


リキッドハンドリング

変革成長



T-AstroX



クロスベルトソーター

既存成長

2023

2024

2025

2026

2027

2028

2029

2030

短期目標・取組み中案件

✓ 差別化戦略の推進

システムインテグレーションビジネス
[物流のDX推進]

★株式会社Nexa Wareの設立
KDDI株式会社との合併



お客様と共に「物流」を変革

データを活用し投資ハードルを下げる
新しいソリューションを
簡単に導入できる仕組みを提案

アフターサービスビジネス
[メンテナンス事業の領域拡大]

★つばきグループの「成長のけん引役」
・コールセンターの変革（機能拡充）
・情報化の推進



業界No1のサービス企業に変革

お客様の設備の稼働を24Hサポート

事業拡大・収益改善に向けた中長期戦略



✓ 「新事業開発センター」が目指す事業領域

人にやさしい社会の実現

- ・ ヒューマンアシスト事業
- ・ 身体機能拡張
- ・ リハビリ
- ・ 介護
- ・ DX・IT事業

地球にやさしい社会の創造

- ・ エネルギーインフラ事業
- ・ 環境対応
- ・ PCS
(パワー・コントロール・システム)

安心・安全の生活基盤の構築

- ・ ニューモビリティ事業
↳ 超小型車両
車載関連ユニット
電動アシスト三輪自転車
(LA SI QUE)
- ・ メンテナンス事業
(アフターサービス)
↳ リモートメンテナンス
- ・ アグリ事業
- ・ ドローン事業

人にやさしい
社会の実現地球にやさしい
社会の創造安心・安全な
生活基盤の構築



環境投資の拡大

- ✓ SBT認証取得に伴う Scope1,2 CO₂排出削減目標変更
⇒ グループ全体で**2021年度比 42%削減**（2030年度）
 - ― 熱処理工程を含む工程変革、**脱炭素投資の拡大**
 - ― エコプロダクトの拡大

✓ 製造拠点の更新投資

⇒ 生産力の維持・向上、「人に優しい」生産工場の実現

- ― 創業から50年以上経過する長岡京工場（MC事業）などカーボンフリーを目指した生産方式改革の実行等に向け再編も含めた建て替えを検討





人的資本投資、従業員エンゲージメント

✓ 「人的資本」への積極投資の実行

⇒ 従業員エンゲージメントを向上させ、人的資本の価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上に繋げる

経営戦略と連動した人材
戦略の策定

- ・ 計画的育成の推進
- ・ 採用による人材補強とリスクリング
- ・ ダイバーシティ推進

納得度、満足度の高い環境の整備

**人事制度
改革**

- ・ 賃金
- ・ 労働条件等

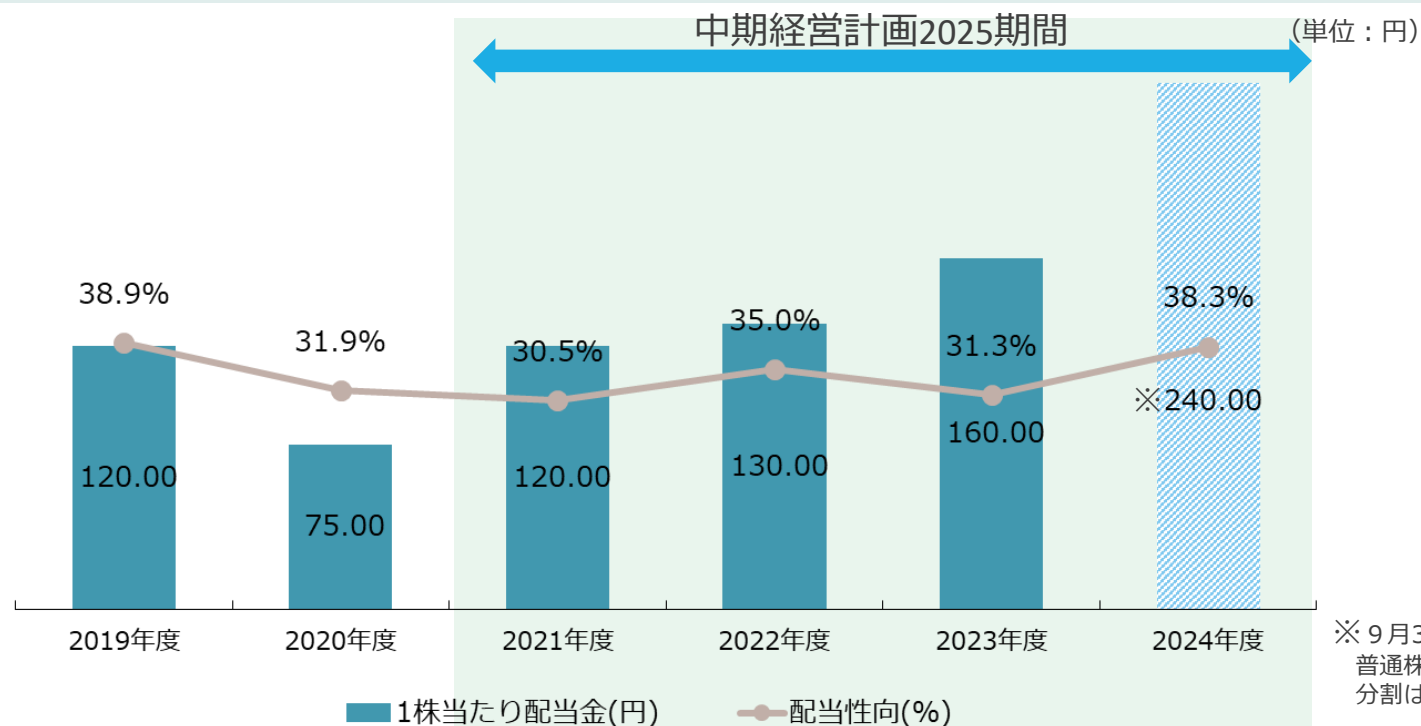
健康経営
・ 労働時間等

**就業環境
整備**

- ・ 福利厚生
設備等

適正な現預金水準を意識した戦略的な株主還元

- ✓ 普通配当の基本方針を連結配当性向「30%を基準」から「35%以上」に引き上げ
- ✓ 自己株式取得などを機動的に実施
- ✓ 政策保有株式についても、2026年3月末時点の連結純資産に対する比率10%以下を目標に売却を推進



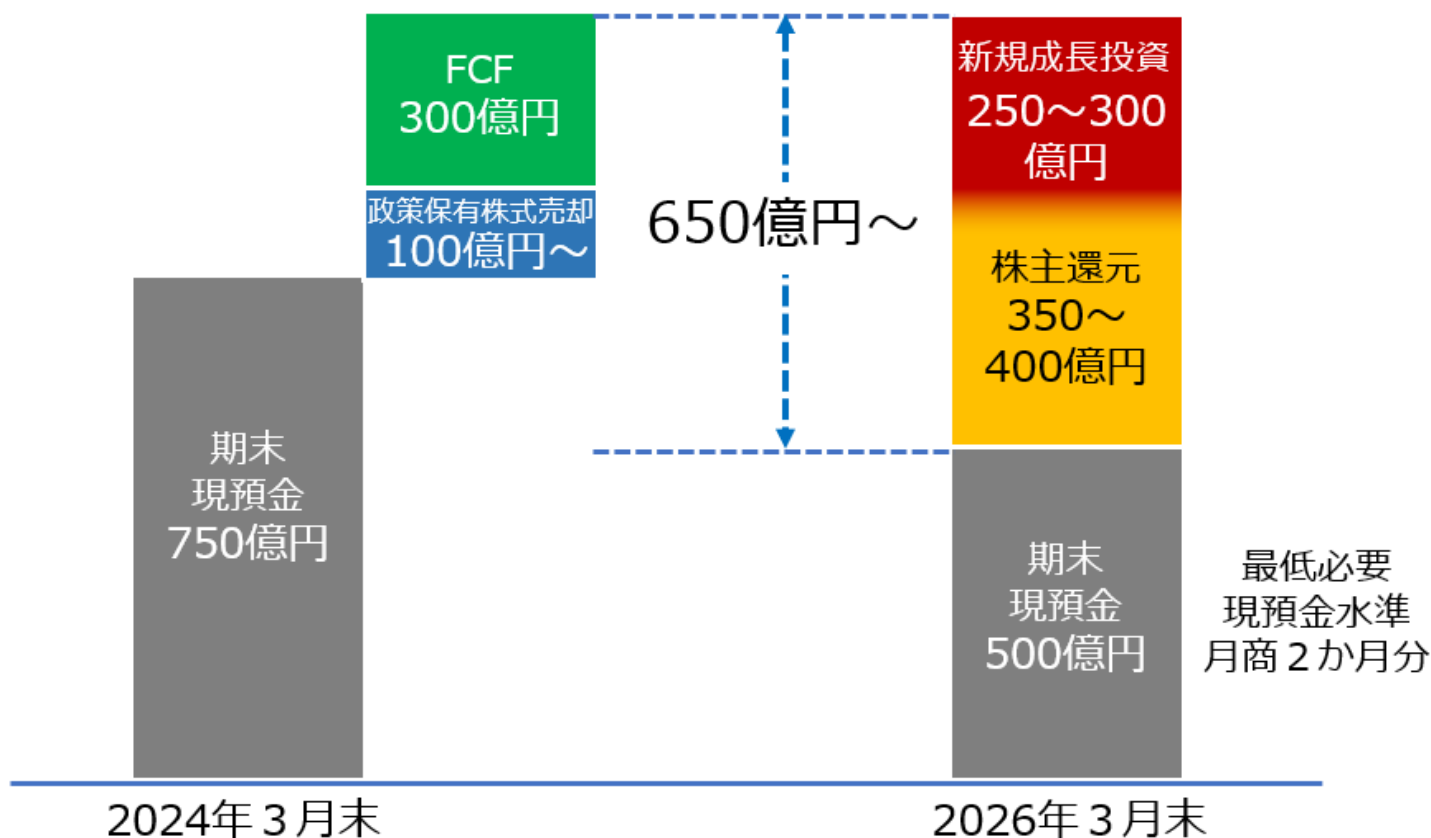
※ 9月30日を基準日とする
普通株式1株につき3株の株式
分割は考慮しておりません。

自己株式の取得

50億円
実施済
発行済株式の
3.2%

100億円
実施予定
発行済株式の
5.0%

✓ 長期ビジョン2030の達成に向け「成長投資」と「株主還元」の双方を推進



2025年 日本国際博覧会（大阪・関西万博）

「大阪ヘルスケアパビリオン」への協賛・出展



「大阪ヘルスケアパビリオン Nest for Reborn」イメージ



当社グループは
パートナーシップ構築宣言に基づき、取引先の
皆さまや価値創造を図る事業者の皆様との連携、
共栄共存を進めるとともに、
マルチステークホルダー方針に基づき、
ステークホルダーとの価値協創や生産性向上に
取り組みます。生み出された収益・成果については、
マルチステークホルダーへの適切な分配を行って
まいります。

本資料に記載している事業計画および業績予想等に関する記述は、
資料作成時点において当社が入手している情報および合理的であると
判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する
趣旨のものではありません。実際の業績は、各種要因により、これら
の業績予想とは異なる結果になり得ることをご承知おきください。